

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 27 日現在

機関番号：31311

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26510016

研究課題名(和文) 災害復興への影響力の研究—個人的レジリエンスと集団的レジリエンスを中心として—

研究課題名(英文) A study on the influence after accident rehabilitation and -personal resilience and collective resilience

研究代表者

水田 恵三 (Mizuta, Keizo)

尚絅学院大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：70219632

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：名取市、岩沼市、石巻市の被災住民を対象に復興感に関するアンケート調査を行った。

3地区に合計1100部を直接配布し、476通の回答、回収率は43.3%であった。復興感に影響を及ぼす要因は、住居形態も大きい。地域への帰属感が高い、地域の協力が強い地域ほど復興感が高くなっている。その一方でレジリエンスに関しては、個人のレジリエンスが復興感に強く影響を及ぼし、集団でのレジリエンスは影響を与えていない。すなわち、最初に予想していたような、災害復興感に影響を与えるのは集団で成し遂げようとする力ではなく、もっと身近な地域による助け合いが復興感に影響を及ぼしていると考えられる。

研究成果の概要(英文)：A questionnaire survey about a rehabilitation sense was performed targeted for the hit resident in Natori-City, Iwanuma-City and Ishinomaki-City 476 persons answered and rates of collection distributed total of 1100 copies to 3 areas directly, and were 43.3%. The dwelling form is also big for the factor which has an influence on a rehabilitation sense, but a rehabilitation sense becomes high like the area where I'm strong in cooperation in the area where feeling of attribution to an area is high. The, on the other hand personal resilience has an influence on a rehabilitation sense hard and isn't having an influence on resilience by a group about resilience. Or it's a group to have an influence on the accident rehabilitation sense expected first, and I can think cooperation by a closer area, not the power I try to accomplish has an influence on a rehabilitation sense.

研究分野：社会心理学

キーワード：東日本大震災 レジリエンス 地域の力

1. 研究開始当初の背景

本研究代表者は被災地に居住しており、多くの避難所や仮設住宅を巡った(水田 2011, 2012, 2013)。その結果、地方都市の復興においても、地域コミュニティの力が不可欠であることが再確認できた。以上の知見を受けて本研究では、地方都市における個人的レジリエンスと集団的レジリエンスが住民の復興にいかにか影響を及ぼすのかを実証的に研究する。

2. 研究の目的

本研究の対象となる石巻市は都市化が進みつつある地域である。仙台市を選定しなかったのは被災した地域が仙台市の中では郡部に当たる地域であるからである。また岩沼市は地方都市であり、農業を中心とした産業を背景に地域の結びつきが強い地域である。一方名取市はもともと地域の結びつきは強いが、一部仙台市のベットタウンとして都市化しつつある面もあった。

行政の復興計画やその進捗度(地域の状況)、個人々の心理状況や健康状態や周囲の状況(個人の状況)が個人のレジリエンスと集団的レジリエンスを媒介変数としていかにか復興への意欲に影響を与えているのかを調べるのが目的である。

3. 研究の方法

本研究は、災害後の地域が復興していく過程において、個人のレジリエンスが強く働くのか、集団的レジリエンスが強く働くのかを、石巻市、名取市、岩沼市の3市を比較することによって明らかにしていく。

本研究の方法はアンケート調査であるが、すでに発災後3市に入り、住民とのラポールを形成してきたことを継続し、ラポールを強めた上で、3市にアンケート調査を実施する。アンケート調査の内容は、復興の進展具合、行政の評価、故郷を思う気持ち、個人的属性の他に現在の心理状況(GHQ)、健康状態、家族などの状況、個人的レジリエンス、集団的レジリエンス、今後の展望、復興意欲などである。

4. 研究成果

震災後6年が経過し、東北地方以外の人々の多くは、ほとんどの被災者は仮設住宅を出て、再建された住宅に住んでいると思っている。しかし、現在でも10万人を超える被災者が、様々な形で各地に避難している。

我々は、東日本大震災後各地を訪れ、また復興支援も行って来た。そこで感じたことは2点ある。第一にこれは言い古されたことではあるが、復興には個人力とともに地域の力が必要なことである。第二に個人と地域の力のバランスには地域によって差があるということである。

今回の調査では、これらの認識の元、現在の復興感が地域によって差はあるのか、個人レジリエンスや集団的レジリエンスはどのように復興感に影響を及ぼしているのかを調査した。

調査は2016年8月末から9月にかけて、名取市仮設住宅、借り上げ仮設住宅、復興公営住宅、復興住宅、岩沼市復興住宅、復興公営住宅、石巻市災害住宅、災害復興住宅、借り上げ、自力再建住宅などに個別に配布した。

全体で1100部配布し、有効回答は476通回収率は43.3%である。

問1. 性別 男性が146名 女性が294名 不明が16名である。

年齢

回答者は60歳代以上が半分以上を占めている。

問2 現在お住まいになっている市町村

名取市	131
岩沼市	124
石巻市	194
その他	4

問3 現在お住まいになっている住宅の所有形態

仮設住宅	143	30.0
借り上げ 公営無償	17	3.6
民間賃貸 有償	25	5.3
実家など	1	.2
自己所有	151	31.7
災害復興 住宅	112	23.5
その他	1	.2
合計	450	94.5

問4 現在の所にお住まいの人数

あなたを含めて ()人

3人以内の家庭が7割を占める。

震災前は4人以上や3世代の家庭も多くあったと考えられるが、単身や夫婦二人の家族形態が多い。

問5 あなたの現在の健康状態

全体的には 悪いという割合は少なく (20%弱) になっている。

○地域ごとの比較

平均をとると 名取市 3.14 岩沼市 3.32 石巻市 3.15 と岩沼市の健康状態が他地域に比べてよい

住居ごとでは名取市復興住宅と岩沼市復興住宅が高く、名取市仮設は最も低い。名取市では仮設と復興住宅との差が顕著である。

問6 現在あなたのまわりには、以下のような方がいますか？

1 いない 2 いる

1から6まで 平均をとった

名取市 1.66

岩沼市 1.66

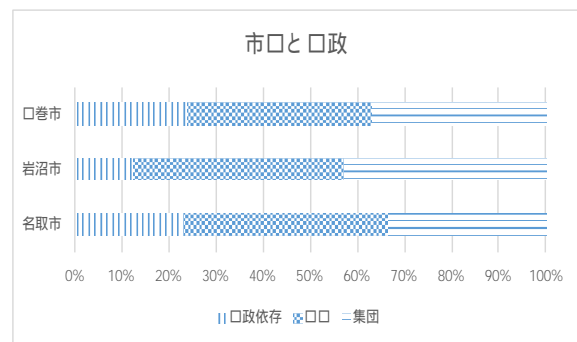
石巻市 1.68

やや 2 のいる よりである。 地域の差はなかった

住宅形態ごとでは、仮設住宅入居者が2とやや いないに近い。借り上げ住宅は他者からのサポートがあり、社会資源の多さを示している。

問7 市民と行政や市民同士の関係

これは、市民間、市民と行政との関係を示すもので、1は行政依存が強く、2は個人の努力に主眼が置かれており、3は皆で協力して地域を作りあげていくことを想定している。



岩沼市は行政依存傾向が少なく、集団でものごとを進める傾向が強い。名取市は集団で物事を進める傾向が他地域よりも少ない。

問8 満足度

名取市の全体的な満足度が低いほかは 差はない。

住居形態ごとの満足度では 借り上げ、復興、仮設の順で高くなっているのもっとも高いのが岩沼市借り上げ、石巻市の借り上げ、復興住宅も高い。ただし、岩沼借り上げは数が少ないので、データとしては参考にならない。名取市と岩沼市の仮設住宅は満足感が低い。

問9 あなたは今よりも生活がよくなっていると思いますか？当てはまる番号1つに付けて下さい。

1 .かなりよくなる 2 .よくなる 3 かわらない 4 .やや悪くなる 5 .かなり悪くなる

名取市が4のやや悪くなるに近く 他の2都市よりも状況には悲観的である。

仮設住宅の方が 2今後よくなるに近い。

借り上げや集団移転は状況が変化しないだけに 3 あまりかわらないに近い

問 10 あなたがお住まいの地域

これは、地域への帰属感を示しており、得点が高くなるほど地域への帰属感が高くなっている。

三地域間で大きな差はないが、名取市の地域への帰属感は低く、岩沼市は高い

この中で名取市の中の仮設住宅住居居住者の平均をとると 2.47 であり、名取市の地域への帰属感の高さは、住居形態に影響されることなく他地域よりも高いということができよう。

問 11. 地域への愛着度

石巻市は 1 と 2 が多く帰属感が少ない。岩沼市、名取市は 帰属感が高い傾向である。

問 12. この地域の住み心地は

石巻市はよいという人が少ない。よくないという人は多い。名取市と岩沼市は大半がまあよい以上である。

問 13. 復興への回復力を個人（個人のレジリエンス）と集団（集団のレジリエンス）とに分け、比較した。

借り上げの個人的レジリエンスが強い。これは、行政に依存することなく復興していた、借り上げ住居者の特徴である。

問 14. あなたにとって現在の復興の様子はいかがですか

岩沼市の復興感が高い。その中でも災害復興住宅居住者の復興感が最も高い。

名取市、石巻市の仮設住宅居住者は 1 や 2 に近く、復興が遅れていると感じている。

次に 問 14 復興感に影響を及ぼす要因を、問 8 満足感（平均）、問 9 1 年後の様子、問 10 地域への帰属感（平均）、問 13 地域への住み心地で調べた。

復興感に影響を及ぼすと思われる要因に関して満足感、一年後の様子、地域への帰属感、地域の様子偏相関係数を求めた。一年後

の様子に関しては、よくなると思っている人の方が復興感は高くなっている。地域への帰属感が高い人ほど復興感が高くなっている。地域の住み心地がよい人ほど復興感が高くなっている。

次にレジリエンスに関してはレジリエンスと復興感との関係を重回帰分析で調べた。その結果、個人のレジリエンスが復興感に影響を与えていることが分かった。

問 15 最後に現在のお気持ちや復興の様子などについてお書きください。（自由記述）震災や復興に関する記述が多い中で、悪い、不安など感情の記述も散見される。復興を思う気持ち、仮設住宅を出たい気持ちの記述が多い。

（まとめ）

名取市、岩沼市、石巻市の被災住民を対象に復興感に関するアンケート調査を行った。まず、この地域を選定した理由は、尚絅学院大学が立地する名取市を中心に調査するに当たって、お隣の岩沼市の復興はイメージとして早かったと言われる。しかし、岩沼市は名取市に比べて、被災程度が少なかったので、比較対象として、死者約 3000 人で名取市と同様の湾岸都市である石巻市を選定した。

3 地区に合計 1100 部を直接配布し、476 通の回答、回収率は 43.3%であった。三都市では石巻市が 200 弱で一番多い。

住居形態では、仮設住宅、災害復興住宅、自力再建住宅が網羅されている。その一方で借り上げ住宅居住者のデータは少ない。仮設住宅が含まれているためもあるが、同居人数は 2 人以内が 7 割を占めており、核家族化している。健康状態は、どちらともいえないからよいなどが最も多く、7 割を占めており、悪化しているとはいえない。地域ごとの比較では、岩沼市の健康状態がよい。住居形態ごとでは自力再建、復興公営がもっともよい。

周囲のサポートの有無では地域間の差はない。一方住居形態では、借り上げが最も高

く、行政の手を借りることが少なく自力復興している様子が窺える。

行政と市民との関係においては、岩沼市は他地域に比べて、行政依存が少なく、集団で物事を決めていこうとする傾向が強い。一方名取市は集団で物事を決めようとする傾向が少ない。石巻市と名取市は行政依存傾向がややあり、復興に関して行政が主導的に進められればいいが、そうでない場合は、行政への不満が募る危険性がある。

現在の生活への満足度は、名取市がやや低い。住居形態では仮設住宅が最も低く、住居形態の影響を受けている。

1年後の想像では、名取市がやや悲観的である。

地域への帰属感では、名取市は地域への帰属感が高い。

地域活動の様子では石巻市は個別で生活している感が強い。一方岩沼市は、皆で地域で協力することが多いようである。

石巻市は地域の住み心地がよくないと感じている人が多い。

レジリエンス（復興力）に関しては地域間に差はない。その一方で、借り上げ住宅居住者は個人のレジリエンスが強く、それが復興力に結びついている。

復興の様子では、地域ごとでは岩沼市の復興感が高い。住居ごとでは集団移転を終わったグループが最も高く、仮設住宅が最も低い。

復興感に影響を及ぼす要因は、住居形態も大きい。地域への帰属感が高い、地域の協力が強い地域ほど復興感が高くなっている。その一方でレジリエンスに関しては、個人のレジリエンスが復興感に強く影響を及ぼし、集団でのレジリエンスは影響を与えていない。すなわち、最初に予想していたような、災害復興感に影響を与えるのは集団で成し遂げようとする力ではなく、もっと身近な地域による助け合いが復興感に影響を及ぼしていると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

水田恵三(MIZUTA KEIZO)

尚綱学院大学・教授

研究者番号：70219632

(2)研究分担者

池田和浩 (IKEDA KAZUHIRO

尚綱学院大学・准教授

研究者番号：40560587

川端壮康 (KAWABATA TAKEYASU)

尚綱学院大学・准教授

研究者番号：90565128

(3)連携研究者

()

研究者番号：